

全日中事務局だより

この度の東北関東大震災でお亡くなりになった多くの方々のご冥福をお祈り申し上げ、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、被災者の受け入れ等援助の手を差しのべられた学校及び関係者の方々に敬意を表し、心から感謝申し上げます。

全日中は、一日も早い復興を期してこの窮状を克服するよう、全国の会員と共に力を尽くす所存です。会員の皆様のご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、中学校は新しい教育に向けていよいよ出発ですが、校長は学校経営目標の実現を目指し、リーダーシップを発揮し、先頭に立って学校を束ねて教育活動を前進させる使命を担っています。

公立中学校長の皆様におかれましては、全日中教育ビジョン「学校からの

教育改革」第4章にある、「笑顔あふれる学校・可能性を広げる教育環境」「夢を語る生徒」「魅力あふれる教員」「しなやかでたくましい校長」の実現を期してご活躍ください。

新会員の皆様へ

平成二十三年度、新たに中学校長としてご栄転、ご栄進された校長先生方に心から敬意を表させていただきます。

お迎えした新会員の先生方には、「全日中教育ビジョン」を踏まえつつ新たな教育の創造に向けて出発した中学校教育の一層の充実・発展に向け、先輩の会員と共に手を携えて歩まれますよう切に願っております。

全日本中学校長会の活動については、

・機関紙「中学校」（毎月発行）

・会報（年報・毎年十月発行）

・記念誌「中学校教育五十年」誌、「中学校教育六十年」誌

等に組織の概要や活動が記されています。いずれも校長室に備えられている

と思いますので参考にしてください。

全日中基金の管理・運営

本会は、昭和五十二年「中学校教育三十年」の記念事業として、全日中の将来を展望し、中学校教育振興を期して、わが国の教育に影響を及ぼす諸課題への対策活動を強力に展開する財政基盤の確立のため、全会員の拠出による「全日中基金」を創設しました。爾来、毎年会員に拠出していただき、積立を継続しています。

基金は、基金管理運営規程、同運営細則に基づき、基金管理運営委員会により管理、運営がなされています。同運営委員会は、各地区選出副会長八名と全日中総務部長、会計部長の十名で構成されています。

基金の運用は、現在二つの銀行で定期預金と国債の形で行っていますが、堅実な管理運営を基本としています。

基金管理運営状況は、理事会で基金管理運営委員長から報告され、総会で

すよう、お願いいたします。

▼「全国中学研究校便覧 第二十三集」六月に刊行、頒布価格は一冊千円。

各都道府県事務局扱いで一括してご注文をいただいております。

▼「週案簿」全日中の「週案簿」は、学校経営に資するものと好評で、年々使用校が増えております。

新学習指導要領に対応できる作りになっており、市販されている週案簿より使用しやすく安価であると好評をいただいております。

頒布価格は一冊八百円です。

会員計報

茨城県取手市立野々井中学校長
大室秀明様 五十七歳 二月一日
静岡県静岡市立清水飯田中学校長
望月長雄様 五十七歳 三月十一日

謹んでお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

（事務局長 青柳 修治）

も報告されます。

○基金の現況

昭和五十二年から平成十三年度末までに積み立てられた基金は四億九千万円余となりましたが、それまで事務局を置いていた文部科学省の分館が取り壊されることになったため、平成十四年六月に基金財産として現在の「全日本中学校長会館」を購入しました。

平成二十二年度末の基金残高は、定期預金として二億八千八百万円余、国債として一億円強、合計約三億九千万円となっております。この他に不動産の形で全日本中学校長会館の土地と建物が基金財産ということになります。

平成七年以降は、預金金利が低くなり基金の益金収入が激減したため、益金で賄っていた新入会員への全日中バッジ贈呈費、地区大会補助費を特別会計と一般会計で充当せざるを得ない状態が続いていましたが、平成十九年度に基金の約三分の一（およそ一億

円）を充てて、全日中基金管理運営規程第五条に基づき、預金金利より利率がよく「確実な有価証券」としての国債を購入した結果、年間九千万円弱の配当収入がもたらされるようになり、新入会員への全日中バッジ贈呈に必要な経費の半額を基金益金から賄えるようになりました。

*全日中バッジ

昭和三十四年に会員としての意識高揚と連帯感を深める目的でバッジが制定され、昭和六十三年度からは新任校長に就任祝いとして贈呈しております。今年度も各都道府県中学校長会宛に送付しました。ぜひ着用ください。

○基金の継続と拠出依頼

基金の趣旨、基金管理運営規程、同細則、拠出依頼書等の関係文書は、都道府県中学校長会事務局を通して新会員の皆様のお手元に届けられます。基金の趣旨をご理解いただき、新会員の皆様には基金継続にご協力くださいま